

## 令和5年度旭川未来会議2030 文化分野 第1回分野別会議 会議録

1 開催日時 令和5年6月21日(水) 午後7時から午後9時まで

2 開催場所 旭川市第三庁舎 1階会議室(旭川市6条通10丁目)

3 出席者(参加者) ※敬称略,五十音順

あべ みちこ, 小沢 和雄, 佐藤 淳, 佐藤 真由美, 柴田 望,  
竹中 英泰, 田中 楓, 東方 鳳山, 山田 雅紘

4 出席者(市側)

(運営事務局)

社会教育部 谷口次長

文化振興課 坂本課長, 松里文化ホール担当課長, 小川主査

(統括事務局)

広報広聴課 乙坂広聴係主査, 広聴係 吉岡

5 会議の公開・非公開 公開

6 傍聴者 なし

7 会議概要

【テーマ】

「文化芸術活動の魅力と人づくり,街づくりに関する取組とは?」

【事務局説明】

事務局より,配付資料を基に,会議の方向性に関する説明とテーマに関する取組事例の紹介を行った後に,以下のとおり参加者による意見交換を行った。

【意見交換】

(参加者)

今,「旭川デザインウィーク」が開催されています。昨日私は,その中の「あさひかわデザイン会議」というのに出ていました。本日の会議とちょっと似ていて,経済・自然・産業・都市と人という4つのサブテーマがありまして,私は「都市と人」でしたが,東京の家具とか,ハコの設計や,化粧品のデザインをしている人と意見を交わし,旭川の魅力を発見するというものでした。ちょっとおしゃれすぎて遠いかなあとも思うのですが,「デザインとは何だろう」というところで,「人をワクワクさせるもの」だという話がありました。文化芸術活動においても,自分たちがワクワクす

ることではなければ、人をワクワクさせ、巻き込んでいくこともできないのではないかと思います。人をワクワクさせるということが、文化芸術活動で旭川の街づくりを動かしていくための第一歩なのではないかと思います。

(参加者)

全ての文化芸術においてそうだと思うのですが、楽しく、満足感があり、発表の場があって、そのことを通じて充実した日々が送れるということが大前提にあり、嫌いな人は参加しないと思います。

一方で、人を巻き込むということと言うと、観たいと思う内容かどうか重要です。好きな人たちだけが集まってやっていたのでは、周りに伝わらなくて、人が増えていかないと思います。

(参加者)

解ります。文化芸術活動もまずは自分たちが楽しくなければ続かないですし、努力もできません。人を巻き込むという部分について、お琴のような何百年もの伝統があるものは、昔から伝わるものを変えることなく次世代に伝えていかなければいけないのですが、根本的なものは残すとして、今の人たちの関心を惹きつけるような要素を取り入れるべきだと思います。

お琴を聴きに来る方に対しては、ただ、素晴らしい曲ばかりで技巧にこだわり過ぎると、「いやあ、こんなの自分ではできないわ」と思われるので、老若男女みんなが楽しんで演奏に参加できそうと思っていただけるような見せ方も必要です。

今回の会議のように色々なジャンルで活動している方が集まる機会にアイデアを出し合えば、単独では全然思いつかないことができると思います。

(参加者)

旭川の人たちが文化芸術に触れることで、豊かな気持ちになったり、穏やかな気持ちになったり、目を養ったりすることで、生活に生きがいだったり、張りを求めていることが魅力ということですかね。

(参加者)

以前にアフガニスタンで文化芸術活動が禁じられているという報道がありました。タリバン政権の方針で詩作が禁じられたことで、アフガニスタンの芸術家たちは他国への亡命を余儀なくされています。アフガニスタンから亡命した詩人からインターネットを通して、タリバン政権に抵抗するために詩を書いてくださいと、メッセージが送られてきたことをきっかけに、国境を超えて色々な国の詩人から詩が集まってきて、これから本になる予定があります。これは詩に関する事例ですが、音楽や踊りなど文化芸術は国境を超えた言語として機能するということと言えると思います。

あらゆるジャンルの文化芸術には無限の表現があり、言語を超えて人間の無限の可能性を確かめ合うものが文化芸術活動ではないでしょうか。そういう意味で、楽しくワクワクする前向きな感情のほかにも、怒りや悲しみのようなネガティブな表現も含めて、文化芸術活動における表現を通じて人と人が関わり合い、心の動きを分かり合うということが人間の社会において重要なことなのだと思います。また、発信する側と、受け取る側の双方向でこういったことを確かめ合うことが文化芸術活動であって、平和にもつながることなのだと思います。

日本でも90年前は戦時体制の中で自由に詩が書けなくて、文学者が拷問されて亡くなったりもしています。戦争が終わると、人類は往々にして勝った国の文化に染まります。日本では敗戦後に西

側諸国の文化が流入し、憲法で基本的人権として表現の自由が認められていくことになり、今私が行っているような自由な活動ができるようになっていきます。しかし、この活動をアフガニスタンで行った場合、私は逮捕・拘留されてしまいます。文化芸術活動の魅力や意義を考えていく際に、このような歴史的背景も踏まえる必要があるのかと思います。

(参加者)

「芸術活動の魅力とは」と言われた瞬間に、真っ先に思い浮かんだことは「自己満足」の四文字です。「自己満足」にすぎないが、自分の生きがいとして発展させ、他者へどう発信していくかが今後の課題だと思っています。

(参加者)

国境が違って年齢が違って作品を鑑賞するとき、自分が共感することもあるし、共感できなくても、自分と違った作品を見ることによって、視野が広がり、新しい異文化が見えてくることもあります。

世代間で交流が生まれるきっかけになるのも、文化芸術活動の魅力であると思います。

(参加者)

私の所属する「フォト集団北限」は、もうすぐ結成して60年になります。クラブを結成するときに作成された文書に、「自分たちが住んでいる街を記録していくことに責務がある」というコンセプトが記載されています。このコンセプトに沿って、旭川に関する写真集を2冊自費出版しました。

写真で大事なことは記憶を記録するということです。何十年も経つと、記憶は風化しますが、私たちの写真集を見てくださった方から、「ここは昔こうだったよね」と言われ、昔のことを思い出し、そこから対話が生まれることがあります。これから迎える60周年では、博物館とのプロジェクトをつくって挑戦しましょうと意思確認しています。

もう一つ、旭川は彫刻のまちとも言われていますが、私は旭川彫刻サポート隊の一員として、ボランティアで野外彫刻の清掃と点検を通じて街の魅力を伝えています。

彫刻サポート隊ができた翌年に彫刻ファン্ড市民の会ができました。好きな彫刻作品を買って、市に寄贈するという取組で、旭川駅に安田侃さんの「天秘」という彫刻を設置し、その翌年から8年間、その彫刻の横で設置記念コンサートを開催しました。その後コロナで3年やっていませんが、今年どうするか検討しています。

「人づくり」ということは大変難しいですが、大切なことだと思います。

(参加者)

彫刻の授業で、彫刻清掃ボランティアの方のお手伝いをしていた時、ボランティアの方から「ここはスタルヒン通りってところなんだよ」と教えていただき、色々な話をして、旭川の街の歴史を知ることができました。知ることによって、もっと自分の街のことが好きになりました。

(参加者)

若い人を見ると囲碁を教えたくくなります。囲碁は一度覚えると、忘れないもので、腕が上がってくると楽しいですし、何物にも代えがたい喜びを一生味わえます。今でも月に2、3回、仲間と囲碁をしていおり、対戦して勝つとうれしいですが、楽しく続けるためには負けた人に対する心の配慮も大事だと思います。そのような関わりが人間関係を豊かにします。囲碁を覚えると、見るのも楽しみ

るようになり、インターネットでプロ同士の対戦をよく見えています。

とても良いものなので、若い人が囲碁に興味を持ってもらえればうれしく思います。そのような思いで、コロナの前に放課後児童クラブに押しかけ出前授業で教えていました。

今集まっている市の職員や委員の皆さんにも10月までの間、どこかで興味を持たせるようにしたいなと思っています。

(参加者)

旭川地区吹奏楽連盟は100周年になる古い組織です。軍楽隊っていうのがあって、町井八郎さんという方が銀座の音楽パレードを見に行き、これを旭川でできないものかと思い立ち設立されました。第1回るときから旭川第二師団さんと私が以前勤めていた旭川商業高校の協働で連続して実施してきており、もう100回を超えました。

少子化に伴う働き方改革で、中学校、小学校の部活の地域移行がすごく大きな問題になっています。部活の功罪っていろいろあるのですが、マスコミでは功罪の「罪」の方をクローズアップしています。一方で、行き場のない子供たちの居場所になっていたり、更生させていくきっかけになったりしています。

教員の数が増える中で、コンクール一つ取っても、合同で出るとか、引率が学校から離れて、クラブ運営になって「誰が引率するのか」とか、すごい問題を抱えています。ただ、「お金がある子がやるんじゃなくて、誰でもやれる」というコンセプトは崩してはならないと思うんですよね。今回の音楽大行進は土砂降りでしたが、地域に定着していて、待っていてくださる方がこんな雨の中でもあるということを確認しました。

前回のキックオフミーティングで、書道の敷居が高いという話がありましたが、そのようなイメージが先行していて、実際のところを知らないことが一番問題かなと思っているんですよね。私自身も含めて、箏曲、写真、囲碁などそれぞれの活動をされている方の良さを知る機会がなかったし、知る気もなかったのかなと思います。例えば、書道の作品をみてもなかなか見方が分からないこともあります。何かの作品を見るとき、見方、聞き方などのポイントを誰かが解説してくれると良いのと思います。誰かにサポートしてもらいながらも、文化芸術の間口を広げて、日常的に触れあう機会が増えれば変わってくることもあるのではないかと思います。

色々なジャンルが一堂に会して、ワークショップでもいいですし、そういう機会があまりありません。旭川市でも、「まなびピア」のような機会をもっと増やしていけばいいですし、昨年からは始まったミュージックウィークもようやくかという感じで、楽器の街、浜松市ではこの時期毎週土日、駅前コンサートをやっているの、まだまだ足りていないと思います。

旭川駅の裏側の河川敷の辺りで演奏するような機会があると良いと思いますが、誰に言ったら良いのか管轄もよく分かりません。小中学生を集めて、何かやったらいいんじゃないかと思っています。

学校開放もやろうと思っています。今まで、写真や囲碁の話などそれぞれのジャンルで頑張ったものがあり、興味津々です。ジャンルを越えて触れ合う場所ができれば素敵だなと思います。

(参加者)

最初、ワークショップということが解らなかったのですが、あれは参加することなんです。ワークショップはみんながしゃべるんです。その良さは、参加することの良さなんです。例えば、先ほど出た駅裏の活用という一つのアイデアを出したら、誰かが拾わなければなりません。

ワークショップの発展型は、自分たちで金を出して、行政からも出してもらって作るってことなのかなと思います。

(参加者)

何か取組を始めるにも金銭的な負担をどうするかというところに行き着きますね。

(参加者)

一つの団体が普通の教室で、体験レッスン募集しても来ないのですが、〇〇先生を呼んでワークショップをします、という色々なスタジオから来ます。そして、そこからクラスが立ち上がったり、毎年恒例の行事になったりと話がどんどん発展していきます。触れ合う機会をつくって、人が繋がっていくことが大事だと思います。

(参加者)

本日のテーマである「文化芸術活動の魅力」という点でいうと、人との関わり、コミュニケーションを豊かにしていく、国境や世代間を越えて通じ合う、上達の楽しさと満足感、無限の表現がある、歴史や風土を学べる、などが出てきました。

(参加者)

「まなびピア」って知らなかったのですが、今までダンスのほかに何があったのですか。

(参加者)

太鼓、獅子舞、タップダンス、フラダンス、ベリーダンスなど、様々なジャンルの団体が出展していて、押し花を造ったりする体験コーナーもありました。また、まなびピアの際に旭川の色々なところをバスで回るスタンプラリーを行い、ゴールの文化会館でバッチがもらえるというような工夫もしていましたね。

(参加者)

囲碁や書道のワークショップがあったり、写真展があったり、ダンスのワークショップがあったりと、夢ですけど、多くのジャンルが参加する体験型イベントがあったら良いですね。来場者は露店で何か食べながら、自由に好きなジャンルの体験をはしごしていくようなイベントも面白いのではないのでしょうか。

(参加者)

最近、買物公園で「まちなかキャンパス」というイベントがありました。色々なブースがあって、音楽が流れていて、ものを買ったり、食べたりできます。文化芸術のイベントとして、そのようなにぎやかな空間が創れたら良いですね。

買物公園にも歴史があるので、そこに小さい子が行って、旭川の歴史を知って、色々な芸術活動があることも知ってもらえる。そんなワークショップもできると良いと思います。

(参加者)

補足すると、「まちなかキャンパス」は今年が3回目なんですよね。企画したのは旭川高専の先生なのですが、ものすごいアクティブな人で、各高等学校や大学に出かけて行って、街なかでワークショップを展開しませんかという声かけをして、現在は旭川市がやっているデザインウィークとタイアップの形になりました。すごいエネルギーですよ。そのエネルギーが伝播して、沢山の民間企業や、

NHK・金融機関なども出展するようになりました。多くの企業が、街づくりに関わりを持つことの重要性を感じてきているはずです。

道外からまちなかキャンパスに出展している団体に、どこで知ったか聞いたところ、2022年のまちなかキャンパスが「グッドデザイン・ニューホープ賞」の「仕組みのデザイン」として入選したことを知って参加したとのことでした。出来のいい発信力というのは、そのように遠くにも届いていくのだと思います。この会議もそうなれば良いと思います。

(参加者)

文化芸術活動で何か発表会等のイベントを行うに当たっては、壇上の発表者だけではなく、実行委員会等による舞台設置や事務仕事などが大変だったりします。私は小熊秀雄賞の市民実行委員会に参画していますが、詩を書く時間を割きながら事業運営を必死で行っています。実際に観客に表現する立場の人だけではなく、裏で支えてくれる力があるからできるということを忘れないことが重要です。

(参加者)

「食べマルシェ」というものがあるなら、「芸術マルシェ」みたいなものもあって良いのではないのでしょうか。

7月1日に旭川市公会堂で「HAPPY SUPER LIVE 2023」というバレエやフラダンス等の団体さんと一緒にイベントを開催するのですが、色々な分野の人たちと手を取り合って進んでいくことで、街づくりということにもつながっていくのかもしれない。

(参加者)

6月24日、25日は吹奏楽祭があり、小中高校・大学・一般と演奏しますが、別に「吹奏楽祭」じゃなくてもいいんですよね。例えば、合い間合い間にダンスが入ったりすると、面白いかもしれないですね。お琴や合唱が入ったり、みんな混ぜたらいいと思います。

(参加者)

旭川の歴史を表現する中で、その当時の話を入れたり、当時流行った音楽を入れたり、ダンス、吹奏楽、合唱、映画音楽など入れながら、彫刻サポート隊の話も入れたり、現在までの旭川を紐解くイベントをやったら良いと思います。大変なことですけど。

(参加者)

そこにアイヌ文化も入ってほしいですね。音楽や踊りも素晴らしいですし。「ゴールデンカムイ」という漫画がありますよね。

(参加者)

先ほど、記憶を記録するという話がありましたが、私は以前に福島県大熊町で被災した経験があるので、今でも津波や事故の映像が見られません。数十年後に見られるようになるかもしれないですが、そのようなときに、一生懸命写真で記録して下さっていただければ、とてもありがたいことです。いつか見られるようになることを信じて、今は旭川の土地で生きようと思っています。旭川で起こった出来事や、そこに関わる人たちの記憶や記録を子供たちに引き継いでいってくれたら良いと思います。そのために年齢関係なく色々なジャンルで交流を持てたら良いですね。

(参加者)

ワクワクしたり、好きになるには、たくさん触れるきっかけがないとまらないですね。駅前とか、人の目に留まる場所を借りられることも大事ですよ。

(参加者)

ライブハウスのカジノドライブさんが店内ではなく買物公園に出てライブをやることがあるのですが、通りがけの子供がそれに合わせて踊っていたりして、そういう風に見るだけではなく、自由に参加できる雰囲気があると良いなと思います。

(参加者)

イベント年間企画表を文化振興課で作ったらいかがでしょうか。

(参加者)

市の施設、公民館などを使用するときは、広報に掲載してもらっています。他に市の施設、ライナー、メディアあさひかわ、北海道経済、道新、グラフ旭川などに取材をお願いして、広報しています。

(参加者)

集客に当たっては、雑誌やフリーペーパーなど、色々なところに広告を載せるという手段もありますが、お金があってもなくても同じスペースで、必ず載せていただけるようなものがあると良いですよ。

(参加者)

皆さんに聴いてもらって、喜んでもらえるのが一番の楽しみで長生きにもつながります。

以上